

ける三鷹の森ジブリ美術館



© 2001 Hayao Miyazaki © Museo d'Arte Ghibli

大人気の市民デー・近隣市民デー

市民・近隣市民限定で、美術館が開館した10月1日前後に、無料でご招待しています。応募者多数のため毎年抽選となり、当日は多くの市民の方でにぎわいます。また、コロナ禍で一時休館を余儀なくされた際には、三鷹市民の方から入館を再開。少しずつ入館人数を増やしていきま



開館20年にあたる2021年の市民デーに1日限定であがった大きなトトロのバルーン

暮らしのすぐそばにある美術館

三鷹駅から美術館のある井の頭恩賜公園までを結ぶ「風の散歩道」も、開館に合わせて整備しました。案内人は、オリジナル案内板の上にいる「山猫」です(トトロではありません)。また、地域の方に親しまれる美術館を目指し、市民・近隣市民の方の優先入館枠を設けて、三鷹駅前のみたか観光案内所でチケットを販売しています(QRコード参照)。

2024年にリニューアルした広報みたかのロゴマーク(1面参照)、市HPのデザインにも美術館の外観が描かれています。



美術館とともに誕生したPoki



開館を記念して宮崎駿監督がデザインし、三鷹のキャラクターとして誕生した「Poki(ポキ)」。名付け親は、公募で選ばれた萌絵ちゃん(当時4歳)で、生息地は三鷹の森です。2017~2025年には、みたかシティバスのラッピングにも登場。市内10カ所にはPokiのデザインマンホールがあります。市内事業者による関連グッズが販売されているほか、市立小学校1年生のランドセルカバーや、毎年開催される「Poki4コマまんがコンテスト」(10面参照)など、三鷹市民にはおなじみの存在です。



© 2001 スタジオジブリ

2017~2020年のラッピング

創設メンバーで現館長の 安西香月さんに聞きました!

地域とともにある美術館としての歩み

2017年に館長に就任するまで、主に展示の仕事を担当してきました。例えば、常設展示室「映画の生まれる場所」の立ち上げでは、絵を額に収めずそのまま壁に貼るという宮崎駿監督のアイデアを形にするため、プリンターメーカーの方に手描きイラストに使うような質感の紙を開発してもらい、複製画を作りました。また、展示が常に新鮮に見えるように維持するには、小まめに手を入れて人の気配が感じられることが大切です。そこで、ときどきスタジオからアニメーターや美術スタッフを招いて、常設展示の机で実際に絵を描いてもらっています。小さな子に「おじさん、うまいね」と褒められるなど、スタジオのスタッフも楽しいようで、上機嫌で協力してくれています。

開館から25年が経ち、近ごろは小学3年生のときに来館した子どもたち(下記参照)が大人になって再び訪れ、「今見ると昔と違って見える」といった感想をスタッフに伝えてくださることも。当館はいろいろな見方ができるものを提供しているので、そこにちゃんと気付いてくれる人が育っていることがうれしく、長く続けてきたかいがあると思っています。



三鷹の子どもたちに豊かな体験を

市立小学校15校の3年生は社会科見学の一環として、また、市内約50の幼稚園・保育園の子どもたちは遠足などで訪れます。さらに、地域の皆さんの働きかけで、四小では2003年から野外上映会を不定期で開催しており、今年は東台小での上映も予定しています。過去には、美術館の近隣の小学生を対象にしたお泊まり会など、子どもたちの思い出に残るイベントを行っています。



2019年お泊まり会の様子